二宮康明 著

切りぬく本

よく飛ぶ紙飛行機 Vol.5

ISBN4-416-39516-7

C0372 ¥631E

定価 本体631円 +税

②
③
⑬
⑦
⑥
①
矢印が前
⑪
⑧
矢印が前
紙クリップなどの針金をこの形
に曲げてフックを作る
⑫
おもり
④

競技用機　（N－345）

この紙飛行機（N－345）は，白の翼をかがやかせながら，７分10秒でイランの砂漠の空高く，視界を去って行ったという記録をもつ，性能のよい機体です．

はり合わせ

のりはセメダインCがよい

主翼⑧のうらに⑨をはりつけ，かわいてから胴体にとりつける

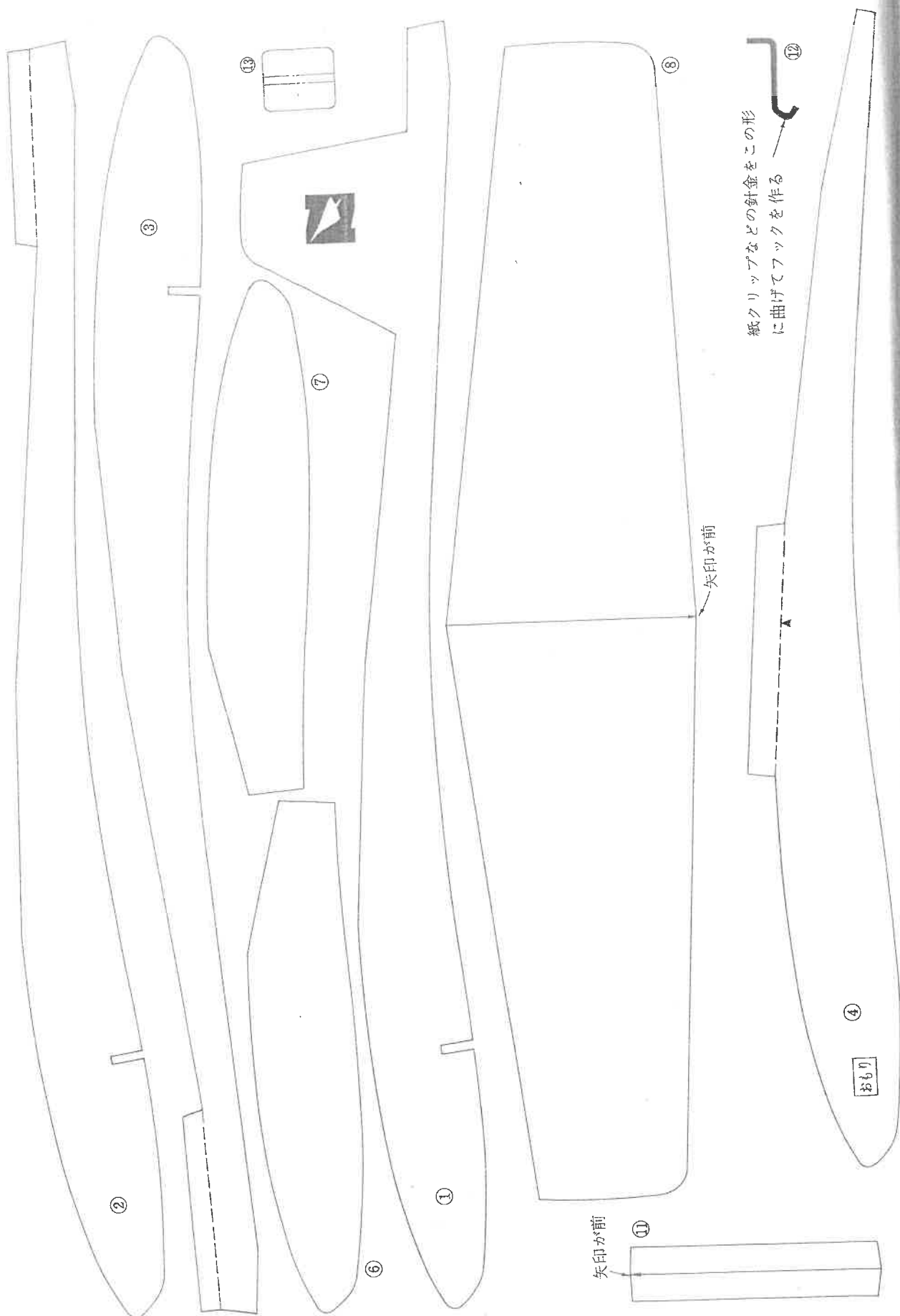
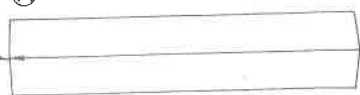
矢印が前

水平尾翼⑩をはりつける

①から⑤までをはり合わせ，小刀でおもり穴をあける．
おもりを中に入れない時は，①から⑦までを全部はり合わせる

針金を⑫の形に曲げて，フックを作り，胴体の穴にさしこみ，抜けないように⑬をはりつける

おもり穴

おもりのつけかた

機首の中におもりを入れる時は，①から⑤までをはり合わせた胴体におもり穴をあけて，主翼と尾翼をとりつけてから，おもりを入れる．おもりの量をかげんして，重心を▲印に合わせる．この時⑥⑦に少しだけのりをつけ，かりに機首にはり，またフック⑫も機首にさしこんでおき，重心が▲印に合うことを確かめてから，⑥⑦をしっかりとはりつける．おもりを入れない時は，右の図のようにする．

調整

のりがよくかわいてから調整にとりかかること

主翼に上反角をつけてから，⑪を中央にはりつける

指でかるく主翼面をわん曲させる（キャンバーをつける）

15°

上反角15°

まっすぐ前からみて，胴体や，翼の曲がりをていねいに直す

機首におもりを入れない時，クリップを2～3個つけて▲印に重心を合わせる

試験飛行

11ページの「試験飛行」にしたがってテストをする

⑤

おもり

⑩

矢印が前

⑥

おもり

⑩
②
⑬
⑫
紙クリップなどの針金をこの形に曲げてフックを作る
⑥
③
①
おもり穴
④
⑤
おもり穴
⑧

2
T尾翼競技用機
(N—354)
おもり穴
⑤
⑧
⑨
⑪
矢印が前
はり合わせかた
のりはセメダインCがよい
矢印が前
⑧
⑨
水平尾翼⑩をはりつける
⑩
主翼⑧のうらに⑨をはりつけ，かわいてから胴体にとりつける
⑦
①から⑤までをはり合わせ，小刀でおもり穴をあける
おもりを中に入れないときは①から⑦まで全部をはり合わせる
⑤
③
①
②
④
⑥
おもり穴
紙クリップなどの針金を⑫形に曲げて，胴体の穴にさしこみ，抜けないように⑬をはりつける
⑫
⑬
調整のしかた
調整は，のりがよくかわいてからすること
指でかるく主翼面をわん曲させる（キャンバーをつける）
主翼に上反角をつけてから，⑪を中央にはり
⑪
つける
10°
まっすぐ前からみて，胴体や，翼の曲がりをていねいに直す
上反角10°
機首におもりを入れないときは，紙クリップを3～4個つけて▲印に重心を合わせる
試験飛行
のりがよくかわいてから11ページの「試験飛行」にしたがってテストする

↙矢印が前

競技用機　（N－423A）

⑧

切りこみを入れる

矢印が前

切りこみを入れる

⑫

⑪

前

⑩

⑨

矢印が前

※作りかたは22ページにあります

①
おもり穴
⑤
②
④
おもり穴
③
⑬
針金をこの形に
曲げてフックを
作る
⑧
矢印が前
矢印が前
⑨

競技用機 (N－350B)

翼端⑩，⑪のとりつけかた

(1) 中央主翼⑧＋⑨の両端の部分をていねいにわん曲させておく（キャンバーをつける）．
(2) 翼端⑩，⑪に切りこみを入れて，点線にそって折り曲げ，キャンバーをつける．
(3) ⑩，⑪の折り曲げ部分にのりをつけて，中央主翼にしっかりとはりつける．
(4) 上の(1)から(3)までの説明通りにすれば，翼端には，主翼に対して，ひとりでに約35°の上反角がつく．

右翼端⑪
中央主翼⑧＋⑨
のりをぬって⑧の下がわにはりつける
左翼端⑩
キャンバーをつけておく
のりをぬって⑧の下がわにはりつける

おもりの入れかた

(1) ①から⑤までをはり合わせた胴体に，主翼と尾翼をとりつけてから機首におもりを入れる．おもりの量をかげんして重心を▲印に合わせる．このとき⑥⑦に少しだけのりをつけて，かりに機首にはりつけ，またフック⑬も機首にさしこんでおき，重心が▲印に合うことを確めてから⑥，⑦をしっかりとはりつける．
(2) ⑥，⑦をはりつけたら，機首の下にさしこんだフック⑬の上から⑭をはりつけて抜けないようにする．

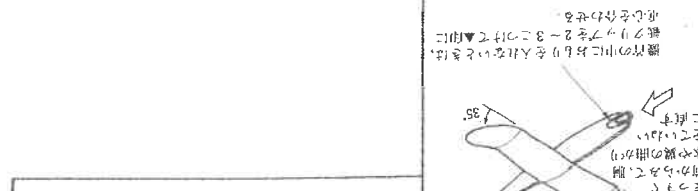
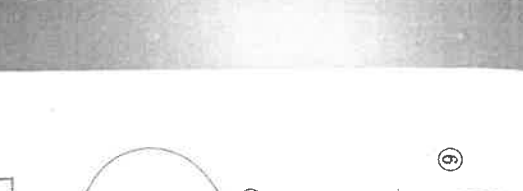
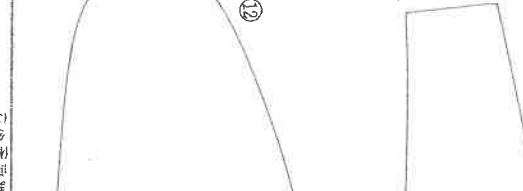
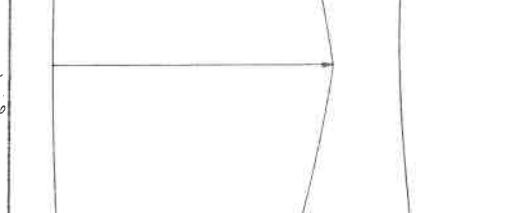
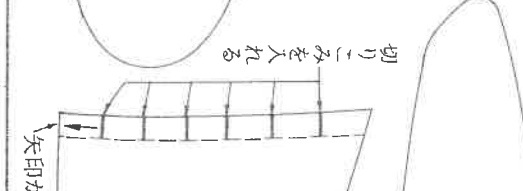
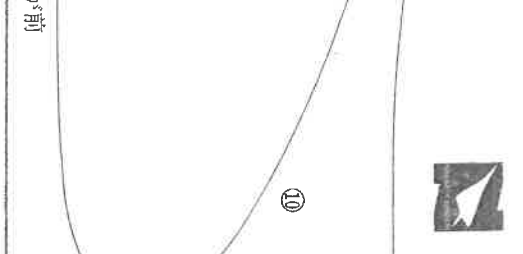
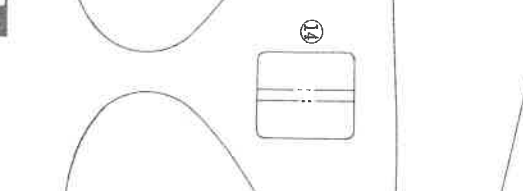
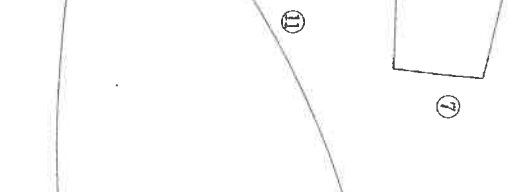
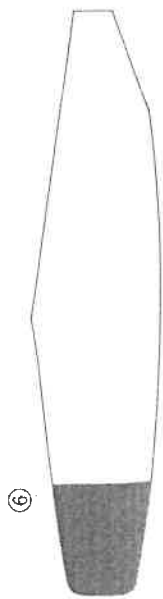
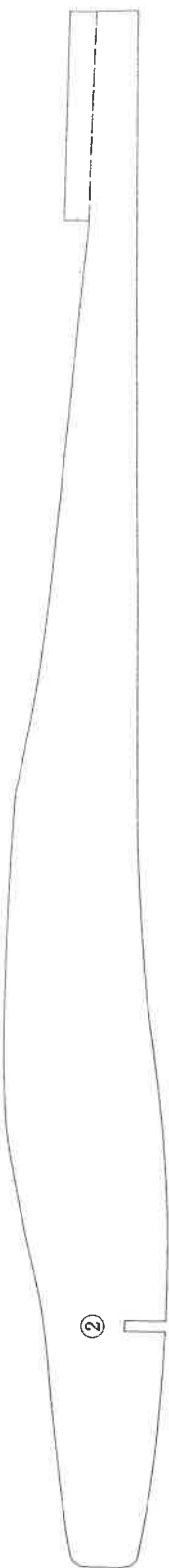
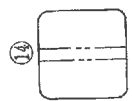
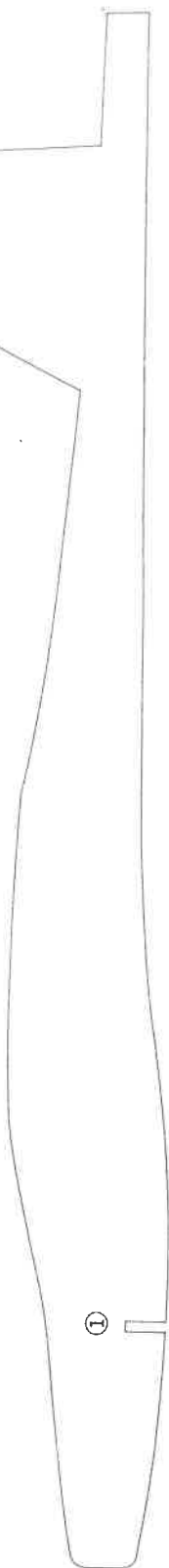
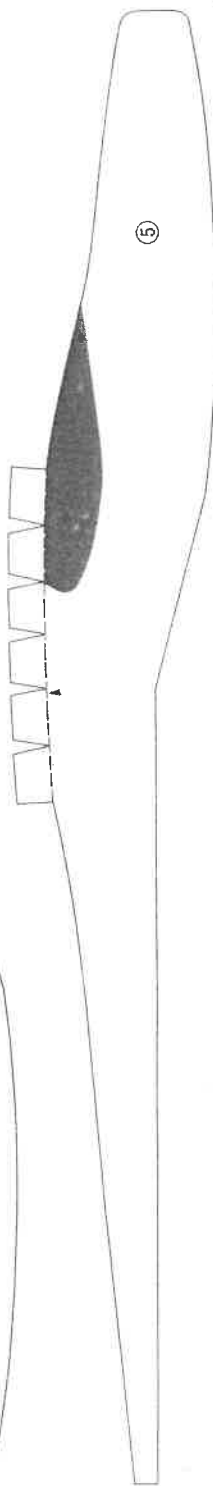
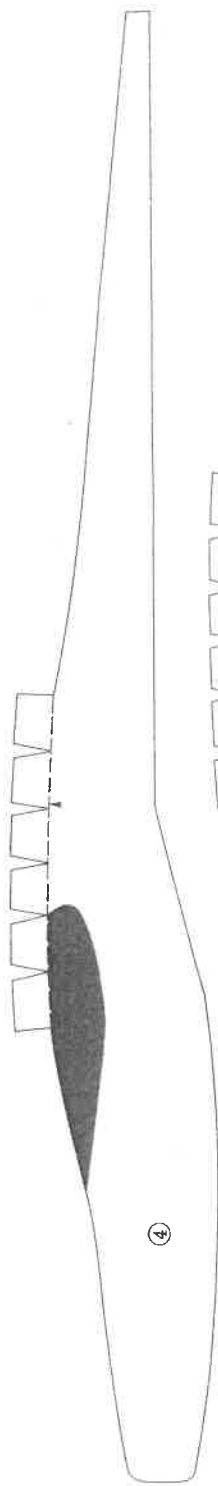
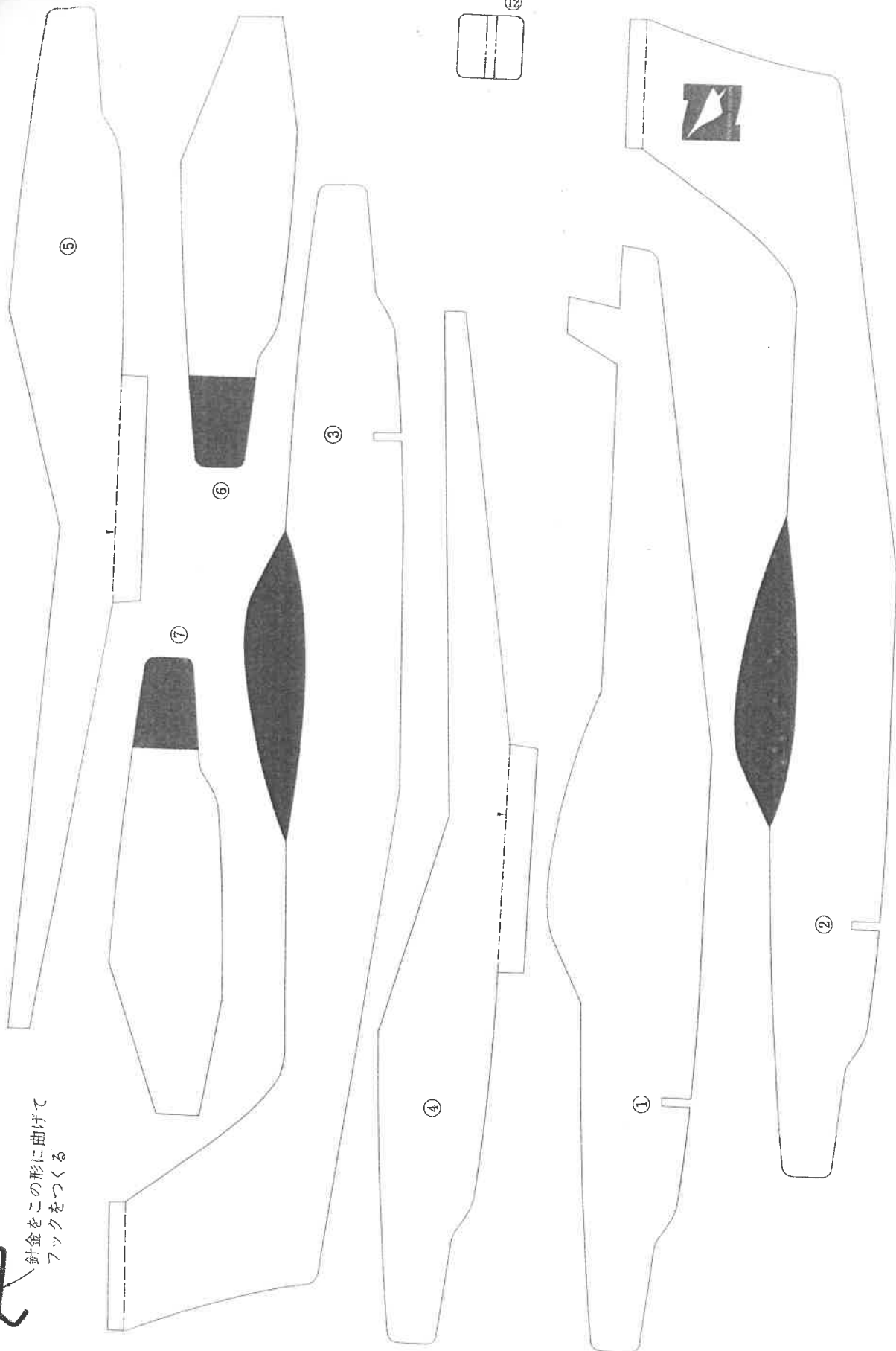
おもり穴

調整のしかた

調整は，のりが十分にかわいてからすること

上反角35°
まっすぐ前からみて，胴体や翼の曲がりをていねいに直す
35°
機首の中におもりを入れないときは，紙クリップを2～3こつけて▲印に重心を合わせる．

試験飛行

のりがよくかわいてから11ページの「試験飛行」をよく読んで，こんきよくテストする

切りこみを入れる
矢印が前
⑪
⑭
⑩
矢印が前
切りこみを入れる
⑦
⑥
⑫

④
⑤
①
⑭
②
③
⑥
⑬
針金をこの形に曲げて
フックをつくる
⑦
⑩
前
前
⑪
矢印が前

滞空競技用
軽飛行機 （N－557）

胴体のはり合わせ のりは「セメダインC」がよい

折り曲げて水平尾翼⑫をはりつける

折り曲げて主翼⑧＋⑨をはりつける

①を中心にして，①から⑦までを番号の順序にはり合わせる

⑬ 紙クリップなどの針金を⑬の形に曲げてフックをつくり，機首の下にさしこむ

⑭ フックがぬけないように，⑬の上から⑭をはりつける

中央主翼⑧，⑨のはり合わせ

翼端⑩，⑪のとりつけ

仕上げ のりが十分にかわいてから仕上げにとりかかる

主翼面を指でかるくわん曲させてキャンバーをつける

35°

上反角35°

おもり不要
（おもりをつけなくても▲印に重心が合うはず）

機体を正面から見て翼や胴体のねじれ，曲がりをていねいに直す

試験飛行 11ページの「試験飛行」の説明にしたがってテスト飛行をする．

⑨ 矢印が前

⑫

切り込みを入れる

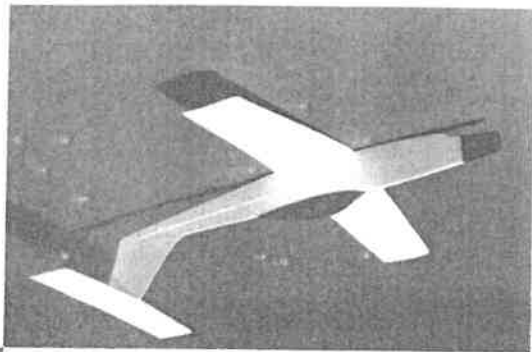
⑪ 前

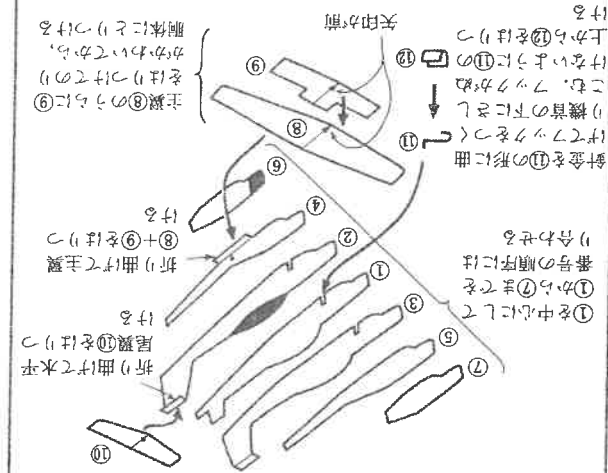
⑩ 前

⑧ 矢印が前

切り込みを入れる

⑪
針金をこの形に曲げて
フックをつくる
⑤
⑦
⑥
③
④
⑫
①
②
矢印が前

T尾翼の 軽飛行機 (N−493)

実物でも最近新しく発表される軽飛行機にはT尾翼が流行しています（紙飛行機も正しく調整すれば，ふつうの形のものと同じようによく飛びます）.

はり合わせ のりは「セメダインC」がよい

注意 主翼の中心線を，胴体の中心に合わせて正しくとりつける．このため主翼⑧+⑨をはり合わせて乾そうさせてから，主翼の中心線の前と後を針先でさして印をつける．この印を基準にして主翼の下面に中心線をひく．この中心線が胴体の中心といっちするようにのりではりつける．

仕上げ のりが十分にかわいてから，仕上げ調整にとりかかること

試験飛行 11ページの「試験飛行」の説明にしたがってテスト飛行をする．

④

⑭

針金をこの形に
曲げてフックを
つくる

⑮

⑤

①

矢印が前

⑬

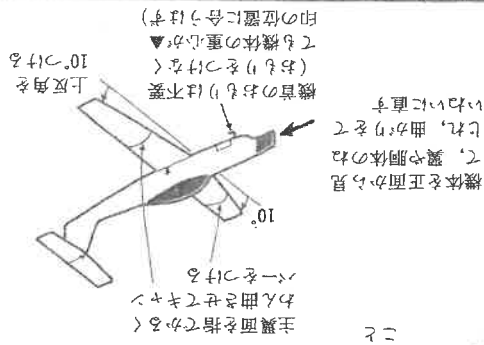
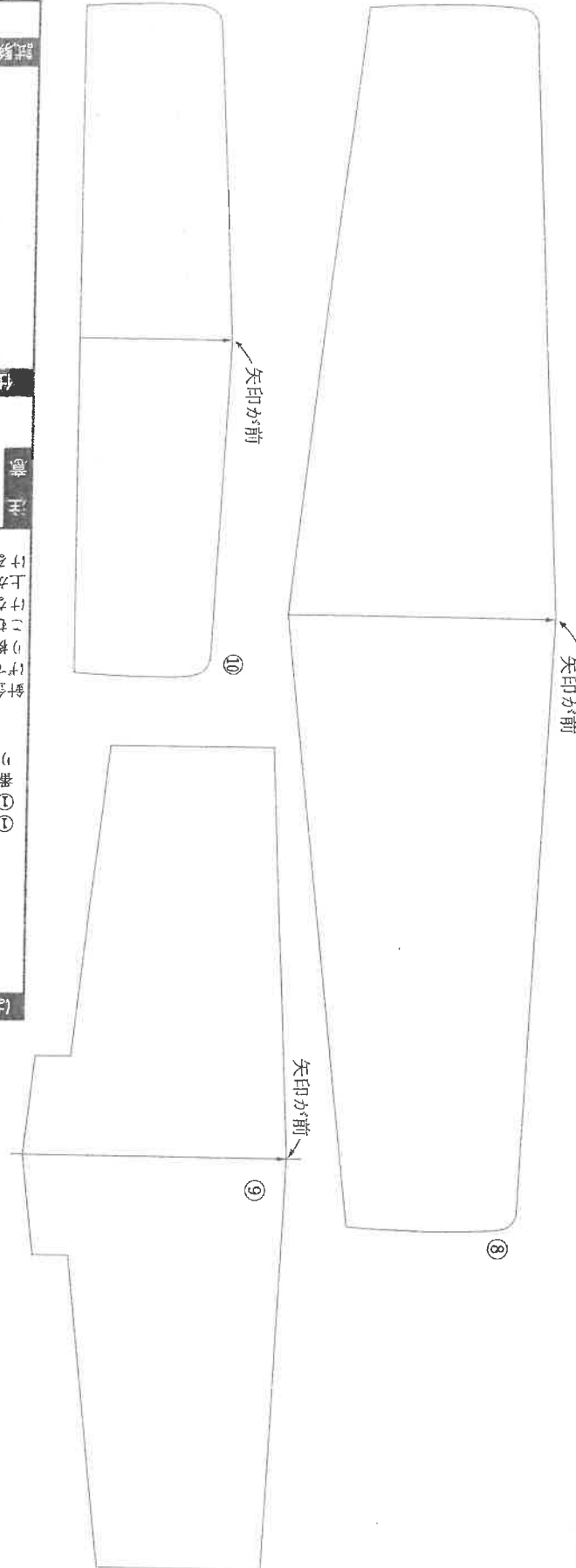
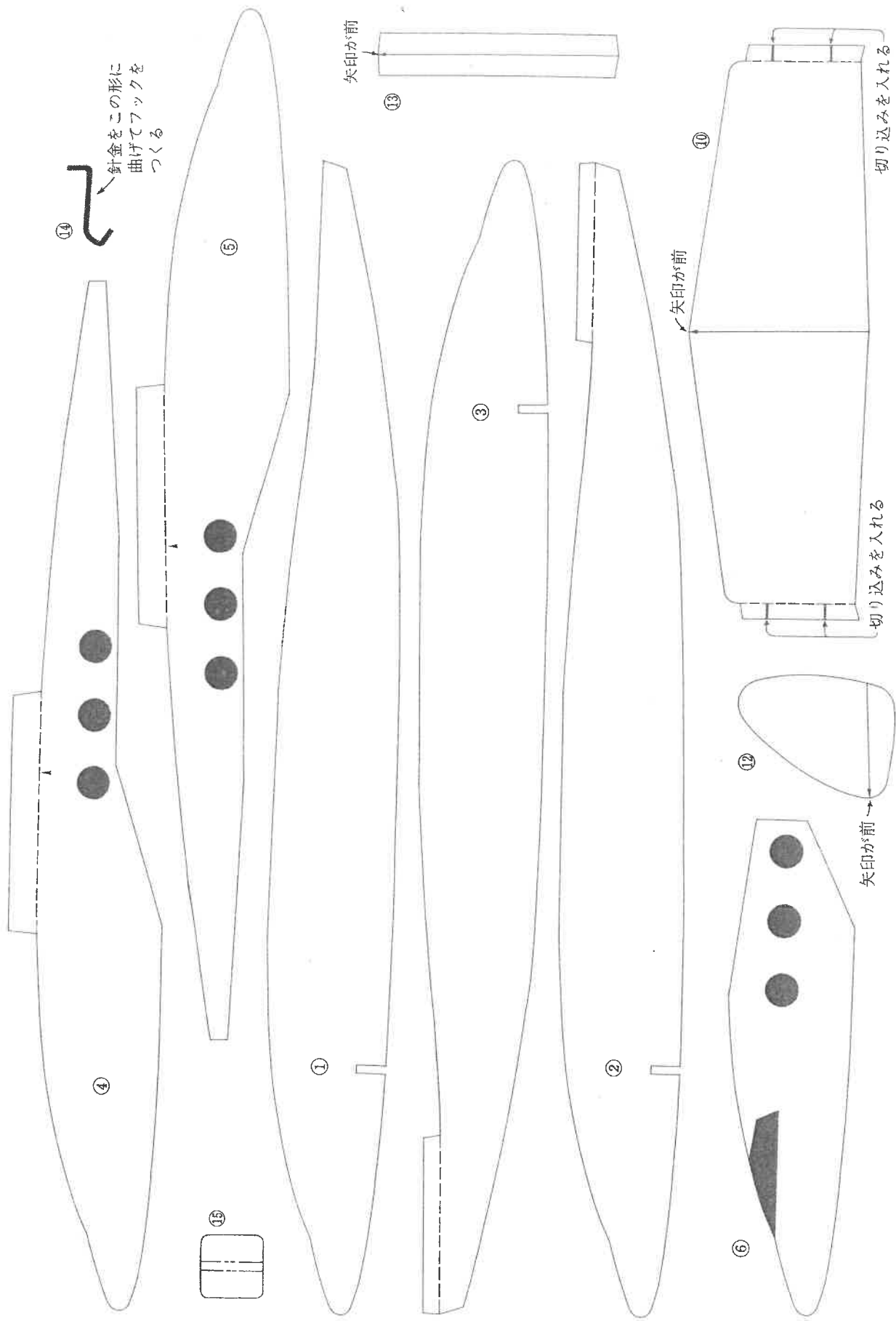
③

②

矢印が前

⑩

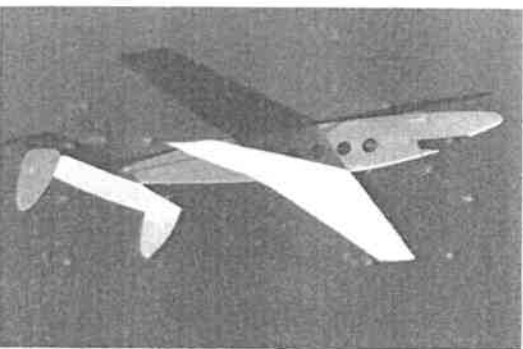
⑥

⑫

矢印が前

切り込みを入れる

切り込みを入れる

矢印が前

コミューター (N－556)

「コミューター」とは数人から20～30人程度の客をのせて，近距離の都市の間や，島などを結ぶ小型旅客機のことです．

はり合わせ のりは「セメダインC」がよい

仕上げ 胴体や翼ののりが十分かわいてから仕上げにとりかかること

試験飛行 11ページの「試験飛行」の説明にしたがってテスト飛行する．

⑥
⑨
⑦
⑧
①
④

小型　無尾翼機

(N-273)

無尾翼機の主翼両端のうしろへりについている「かじ」は，昇降舵（しょうこうだ）（機首を上げ下げする）と補助翼（ほじょよく）（機体を左右にかたむける）の両方の役目をかねています．したがってこのかじは，昇降舵（エレベーター）と補助翼（エルロン）とを合わせた「エレヴォン」という名前で呼ばれています．

無尾翼機をうまく飛ばすには，このエレヴォンの調整が大切です．試験飛行の説明をよく読んでください．